

令和5年度第1回長井市振興審議会 議事録

開催日時：令和5年6月6日（火） 15時00分～17時00分

開催場所：長井市役所 庁議室

出席者：31名（委員14名、事務局17名）

■振興審議会委員 遠藤倫夫委員、渡部政明委員、加藤眞佐夫委員、齋藤裕之委員、蒲生直樹委員、井上榮子委員、梅村律子委員、土屋智代委員、長沼真知子委員、牛澤栄一委員、上村正巳委員、青木與惣右エ門委員、下平裕之委員、鷺見孝委員
（出席14名、欠席4名）

■事務局 齋藤環樹副市長、土屋正人教育長、竹田利弘政策推進監、青木邦博技術参与、高石潤一危機管理参与、新野弘明総務参事、梅津義徳厚生参事、赤間茂樹産業参事、佐原勝博建設参事、佐藤久財政課長、高世潤教育総務課長
総合政策課 渡邊恵子課長、佐々木真一総合戦略室長、長谷部貴子主査、安部惇士主任、高橋主事、本間

傍聴者：無し

【次第】

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 報 告
（1）第六次総合計画の検討状況報告
- 4 協 議
（1）第六次総合計画 基本構想（素案）について（資料1）
（2）第六次総合計画 基本計画の枠組みについて（資料2）
（3）第六次総合計画の評価方法について（資料3）
- 5 その他
- 6 閉 会

【議事録】

- 1 開 会
- 2 あいさつ

○齋藤環樹 副市長

振興審議会の委員の皆様には、ご出席いただきお礼申し上げます。また、日頃から当市の行政運営におきまして御理解と御協力を賜り、感謝申し上げます。

5月8日以降、新型コロナウイルスが5類感染症に位置づけられたことにより、全国的に人の移動が活発になり、先日行われたながい黒獅子まつりにも多くの皆様が来られ、コロナ前の活気が戻ってきたように感じている。

さて、皆様に協議いただいている第六次総合計画につきましては、令和6年度からのスタートに向けて、今年度中に具体的な計画の形へと仕上げていくことになっている。本日の審議会ではこれまでの振興審議会では委員の皆様から頂いた意見や、市民ワークショップや地区ワークショップでいただいた意見を踏まえ、第六次総合計画の基本構想の素案、基本計画の枠組み、評価方法についてご提案をさせていただく。ぜひ活発なご意見を賜るようお願い申し上げます。

○下平裕之 会長

今日は基本構想の素案、枠組み、評価方法を中心にご意見いただく。基本構想が大きな方向性ということで、これにつきまして皆様からご意見いただいて、市民の皆様のための構想になるようにご意見いただければと思う。

3 報 告 [座長＝下平会長]

(1) 第六次総合計画の検討状況報告

事務局より、山形大学で作成した市民ワークショップ活動報告書と令和5年4月のあやめレポを資料として説明。

4 協 議

(1) 第六次総合計画 基本構想（素案）について

資料1に沿って、事務局から説明。

(委員)

市民ワークショップで若い世代から、魅力ある長井にするための課題や何が必要なのかなどの意見を吸い上げて取り組んだと思う。こういったデータが出た中でこれをどのように具体的に実行していくかに関しては現段階であるかどうか聞きたい。

(事務局)

実行していく中身については今後基本計画で位置付けていくものとなる。内容はこれから庁内で詰めていく。その中で、データ等でも「定住の意向を高めたい」、「愛着を高めたい」といった課題が挙げられているので、仮の将来像に「いつまでも住み続けたいまち」として掲げることによって、それに沿った具体的な施策を今後検討していきたい。

(委員)

「健康であること」や「医療の充実」、「介護の充実」など割合的には多いというところで近くの人や家族がいるので住み続けたいという方が多いのではないかと感じた。これを他の市外、県外の方が長井に魅力を感じて定住してもらえるような魅力づくりに目を向けていってほしい。

第六次総合計画の表紙案について、写真についてはテーマとリンクしてわかりやすく表現する必要があると感じる。写真というのは文字をイメージ化してくれるものであると思うので、「いつまでも住み続けたいまち 長井 ～みんなしあわせ ずっと笑顔～」という将来像であれば、小さい子どもから大人まで男女世代を越えて老若男女の方々が満面の笑みで、水や花を想像させる場所を背景にした写真を使うなど、写真を見ただけで想像できるというのは必要なことだと思う。けん玉も長井の市技になっているので、アイコンに使うなどしてもいいと思う。

(委員)

P3について「定住意向」、「しあわせについて」のところで、20代、30代が他の年代と比べて低いということについて、なぜだということを分析しているか。また、高めるためにはどのようにすれば良いと考えているのか。お聞きしたい。

P6で、一人当たりの市民所得について、長井は置賜の中でも、ずっと高くきたのが平成29年から低くなっている。これは何が原因なのか。

「水と緑と花の長井」を基本理念としていただいたのは大変良かったが、まちづくりの基本にこれがあってほしいと思う。くるんとは新しい試みがなされて建てられた建物だが、「水と緑と花のまち」を表すようなものがどこにあるのか。これからつくるであろう様々な建物の中にその理念が活かされたような景観にするなど、理念に沿った考え方で行ってほしい。

(事務局)

一つ目の質問について、しっかりとした分析はしていないが所感としては、20代、30代というのはまだ人生の途中にあり、これからの年代の人たち。その年代の人たちが現状に満足しているとい

うのは喜ばしいことでもないのかなと感じる。例えば、生きがいやしあわせは年を重ねるにつれて幸せの感じ方が違ってくる。20代、30代の方がどんなことを生きがいにしているのかなどはこれから分析が必要だとは思う。

(事務局)

市民所得について、単純に市民の所得を計算したものと思いがちだが、一番大きな要素は工業や製造業の出荷額など、いわゆる付加価値をつけた額などになる。長井は、昭和の時代は県平均よりもずっと高かった。大企業の規模縮小や撤退が、市民所得が変わってきた大きな要因と考えられる。

(事務局)

くるんについてお答えする。今建物ができ、周りの外構を整備しているところ。線路側が緑にして、東側に水盤をつくり、水の空間とする。一番南側には花の広場を作る。そういった「水と緑と花」のコンセプトをいかした建物になっている。

(委員)

一つ目のことについては、20代、30代はまだまだ安定していないというのがあると思うが、別の面で雇用が不安定であるとか、賃金が低いなどがあって、別の所に行こうという層が多かったりはないのだろうかと思う。ただ、新聞に県内移住が2022年度は268人、その中で長井は割と多い。天童市が18人、長井が16人。かなり移住者が他のところと比べて多かったようだがこれはなぜか。長井のどんな魅力に惹かれて移住したのか調べているか。どのような年代の方が来たのかということもあると思うが、若い人たちが必ずしも定住意向があるわけでもないという一方で、長井に新たに移住した人もいる。他のまちと比べて、決して少ないわけではなく、むしろ多い。その要因はどこにあるのか。何を長井の良さと捉えてきたのか。

二つ目の、市民所得について、お答えの通りなのだと思う。企業が撤退をしている影響という説明はわかった。

(事務局)

移住について、総合政策課で転入する方についてなぜ転入したかアンケートを取っている。全数回収はできていないが、年代や移動理由などは統計をとっている。こちらの方は、人口減少に特化した長井市の総合戦略を評価する長井創生会議で紹介している。長井の良さについては、そのアンケートの設問に入っていないので、そういったところ加えるかどうか検討していきたい。

(委員)

計画なのでおおまか流れはこの形で良いと思う。

内閣府の日本人の満足度調査があるが、設問は違うが、それとこのアンケート調査の結果をみると少し違和感がある。

P7に財政のグラフがあるが、このまま人口が減ると市税は減っていく。今後の見通しが載っていないので上と下を比べると、このままだと市民税が上がってしまい、非常に税金が高いまちになってしまうのかと思う。

長井市単独で住みやすいまち、これからも暮らしていきたいまちということでやっているが、だんだん市として人口が減っていくと、もちろん若者が定住するための施策等があるが、これはトレンドで、長井に限らず長井近隣のまちも同じようにすると思う。このなかに、合併を考えるなど一言も書いてないので、この先も長井単独でずっと目指していくのか。

P11で、文言として「水と緑と花のまち」となるとこれでいいと思う。これで決定ではなく、このような感じということか。フォントやデザインは第五次の方が素敵だなと思った。

(会長)

違和感というところのような違和感か。

(委員)

内閣府などが調査しているものだと、日本人の幸福度は低い。長井は非常に高いというところで非常に違和感を感じた。

(事務局)

全国で調査するものと、長井が調査するものでは幸せの捉え方が違うので明確な答えができない。申し訳ない。

(委員)

感想なので問題ない。

(事務局)

人口が減少すると市税は減少する。しかし、税収としてその他に法人税等があり、税収全体としては減る。それに対して、市で事業を行う場合、必要となる事業費がある。その差額については一定程度、国から交付税という形で市の方に入ってくる。足りない分は国から援助いただける形になっている。このことから、人口減少によって市税が上がるかということについては、現状の税率を維持しながら事業を進めていくと考えていく。

(委員)

それは重々承知しているが、例えば市役所やくるんなどのインフラを整備しているが、補助金が出るにしても、これを維持するお金についても国が出してくれるのか。

(事務局)

維持費についても全額ではないが、市で必要となる費用ということで、国の方から一部交付税の中に含めて交付が来るという形になっている。

(委員)

それであれば、財政についてこのような感じでいくので、長井の財政は健全だという見通しをいただいていた方が市民として安心できると思う。

(委員)

人口減少が過激だということと、独身の男性女性たくさんいるが、結婚する機会をどこかで設けていただければありがたい。

工業出荷額について約 500 億円ということだが、この原因は大企業がなくなったということと、長井の工業の会社はお客様のほとんどが県外。県外ということはどういうことかということ、交通機関が新幹線や飛行機になり、買い物は、山形市が圧倒的に多く、次に米沢、仙台になる。そういった時に一番困るのが交通の便。フラワー長井線の存続は 10 年近く陳情してきたが、心の中では使わない自分を責めている。なんで使わないかというと、高いため。フラワー長井線を残しつつも、バス路線だけでもなんとかしてほしい。この前も山形市で懇話会があり、送っていってもらい帰りは奥羽本線で赤湯まで来て、長井線があったが 50 分待ち。50 分待つならばと、迎えに来てもらった。文化でも芸術でもスポーツでも、やはり山形市や米沢市を中心に県が動いている。そこに行ってサッカー見たり、野球見て帰ってきたりするというパターン。車で行っては飲めないし、かといって一泊二日をサッカーを見るためにやっていたらいい。フラットに考えると、愛知県や東京でも電車の本数はちゃんとあって夜遅いか早いかの違い。朝 4 時半に起きて、2 時間かけて会社に行っても勤める。しかし、長井市はそれができない。若い人は、住むのはいいが、仙台に買い物に行くと、立ち飲みして帰ってくるという楽しみ方をしたいと思っても不可能。途中の 50 分待つなど耐えられればいいが。中心が山形市と仮定して、そこから円を描いて、山形なら 50 万、上山なら 40 万、白鷹なら 30 万、長井市は 5 万でもいい。所得格差があってもいいが、家を建てる時に山形なら 50 万で長井だと 5 万円でするんともできるし、タスもあるし、駅もきれいだし素晴らしいと。かかる時間が 1 時間か山形市民の方だと 5 分か 10 分だと思うが、目的は何かといったときに、芸術に触れたい、スポーツに触れたい、文化に触れたいそういったことであれば関係ない。ただ残念ながら、交通の便が非常に悪い。ここだけ何とかすれば、若い方々も山形市内でとやかくいわれても、その日帰って帰ることができるならば山形で高い家建てて貧乏しているより、長井に来て豊かな生活した方がよいのではないかとはい返せるが、今のままだとはい返せない。交通について、商圏が変わっているということを前提にした長井のまちづくりをしていかないと長井は盲腸的な形

になり、そこに住むのかといわれると、山形市にも似たようなところがあるなどで、若い方はそっちにいつてしまうのではないかなと思う。なので、今回の計画の流れはこれでいいし、これからくるんともでき子育てもすごく良いと思うが、ただ若い方々が働くとなったときに交通の部分がネックになっているのではないかなと思う。

(事務局)

これまでの交通政策につきまして、一番の着目ポイントは市民生活に重点を置いていた。身近な交通として市営バス、中心部と周辺の5地区の住民の足を確保する政策を重点的に進めてきた。市外、特に山形市などとの交通となってくると、まずはフラワー長井線、山交バス。実際山交バスについては朝と夕方はあるが日中ほとんどないので山交さんとどのような協議ができるかだが、相談していくしかないと思う。フラワー長井線についても赤湯から荒砥までという区間になるが、一部今泉から時庭のところは線路を借りている関係があり、最終便が午後10時までしか走れないといことがある。奥羽本線だと山形駅11時くらいに出発して赤湯駅に来ることができる、あとの足がないところではフラワー長井線の方はJRと交渉が必要になる。今1時間に1本のフラワー長井線なので、市民からの声として、せめて30分に1本あれば使えるというニーズがあるが、経営のことがあるのでこれから検討していきたい。

(委員)

山形で会があって、飲むと赤湯までは帰れるが、そこから帰って来ることができない。そう考えると、山形は良いかなと思う。私も思うのだから、若い人もそうだと思う。山形市内で20時くらいに終わったら長井まで帰れるような仕組みを考えていかないといけないと思う。なんとか市民負担があったとしても、若い方の意見を聞かなくてはいけないと思う。

(委員)

第六次総合計画の基本構想についてはこれで異論はない。P1の1の(1)について、大規模な自然災害が起きているところで、安全安心の取り組みの重要性が増していると書いてあるが、これは要望になるが、基本計画・実施計画にソフト、ハードあると思うが、細かく反映して欲しい。

(委員)

市民アンケートや統計調査から課題を見つけて新しいまちづくりというところでは整然とした流れになっているというのが第一印象。

統計調査やアンケートが前半にあるが、読んでみると明るい要素がないのかと思った。明るい要素から、何か新しい夢、希望を持てる構想にできないかなと思った。現実をしっかり踏まえているというのは大事だと思う。このままで結構だと思う。しかし、そこからやはり長井のまちは誇りもあるれば自慢もあるので良さというのは当然ある。「水と緑と花の長井」という言葉は市民がみんな認知している自慢・誇りだと思う。市民のワークショップで市民の皆さんの話を聞いたわけなので、改めて長井の良さや自慢、誇りを確認した上で、さらに次世代に向けてつなげていこうというような前向きな姿勢を目指す姿や、まちづくりに打ち出していくことで良いまちづくりにつながる印象を受けた。

P10の「水と緑と花の長井」を次世代へつなぐ」と単にあやめ公園をつなぐなどではなく、長井の誇りをつなぐという意味で捉えたいと思う。

(委員)

「水と緑と花の長井」を代表的なフレーズとしたことについて大変良いまとめ方をしていただいたと思う。ただ、目指す将来像について、行政だけがというのではなく、(P10の(2)の)④にもあるが市民と共に創りあげるという視点というのを将来像の中に盛り込んで頂ければと思う。というのは参画の部分が非常に薄くなっている。最近コロナがあって、余計それが助長されているように感じる。「みんなしあわせ」というところで③、④があるが、ここにぜひ共創の考え方をするようにしていただけるとありがたい。

表紙の写真について、期待できる公共物が市役所の隣にできるので、くるんが表紙に反映されるような形だと良い。

(委員)

基本目標などについて、P13 で五次総では8本の柱だったのが、これを5本に集約するというようなことでまずは網羅し分野横断的ということでよく考えればなるほどと思うが、下手をするとお互いにかぶせ合ってしまったところまでは行き届かなくなってしまうということが懸念される。基本目標についてのアンケートや市民からの様々な意見を取り入れて作るわけだが、行政色になってはいけない。5本の柱にしたことによって、市民が捉える感覚、いままで8本だったのでくどいという印象があったが、5本になってすっきりするというようなことにしていただければ非常に良いと思う。

(委員)

これまでの振興審議会の議論や課題の分析などを踏まえていただいて、非常にまとまっているように感じた。100点満点の「目指す将来像」の書き方はないかもしれないが、委員会の意見を踏まえて、次の具体的な基本計画や成果指標づくりを進めていただきたい。

P9の「各部門で取り組む主な施策」総務部門で「多様性や男女共同参画の理解促進」に修正され、前回の審議会での意見を反映していただき良かった。だが、P8(2)の2行目については、男女共同参画推進審議会でも今後10年間(5年ごと)の基本計画を同時に準備しているところだが、「男女共同参画社会に向けた理解促進」だと遅いので、ここは「男女共同参画社会の実現」としていただきたい。

P13について五次総の基本目標7と8を六次総では基本目標5にまとめていただくことはよいと思う。ただし、協働のまちづくりに市民が参加して、P9の課題を踏まえて、長井市の取り組み(「安心を高める」、「すべての人を包み込む」、「人をあつめる」、「共創」、「デジタル」)を一体になって取り組むことが非常に大事だと思う。分野横断的に取り組む重点戦略とも重なるかもしれないが、個別施策だけでなく分野を超えて住民の意識啓発や共創を大事にした中身にしていただきたい。

「水と緑と花の長井」を残していただいたので、「水と緑と花の長井」をどう創っていくのかを検討し、まちづくりの骨格として、市民が行政と共創して実現していくものにしていただければと思う。

(委員)

P4のマトリクスで、低いところにある「生涯スポーツ」、「男女共同参画」、「交流・移住」、「芸術文化」、「文化財」を上げていく必要があると感じた。

先々月、東京から島原万丈さんという方に講演に来ていただいた。多様性や寛容性がすごく大事だという話で、東京に出た若者がなぜ田舎に戻らないか、全国の都道府県のデータを都道府県別に数値化して調査結果を発表したが、年配の皆様方が東京に出た娘が帰ってきた時に「お前はまだ結婚しないのか」や「お前はまだ子どもができないのか」などと言う父親や親戚が多いまちに誰が帰ってくるのか。そのような状況があるまちほど、閉鎖的で進歩性が低いといわれている。そこを改善する意志があるまちが変わっていくというときに、文化・芸術は大事な要素。さらに、アーティストや芸術家があるまちになれば、大体彼らは若い方が多いので、その若い方たちの作品をみるために若い方が来る。そのようなまちになる取組はすごく大事というお話をされた。我々は山形市や米沢市ではないし、そこでしか文化・芸術がないのかというと、そこは違うと思いますし、文教の杜の後藤事務局長がいらっしゃってからすごく面白い試みがなされていて、絶えず見に行くが、芸術性が感じられる文教の杜を核として街中を散策しながら重要文化的景観都市というのを打ち出していくという具体的コンテンツは長井市にある。2万6千の人口のまちなので、10万、20万のまちよりも成果が出しやすい。具体的目標を明確にすれば成果が出しやすいところを明確にすると面白いのではないかなと思う。

裏表紙のところについて、まちづくりの課題が明確になった。P13で六次総のほうに赤字であるが文化・芸術となったことも素晴らしいと思う。5-②の「地域づくり」というのも面白いと思う。縦の文字が行政の組織縦割りに見えるが、市民参画とどのように並行させていくかが気になった。

成果や目標はなんなのか。これからだと思うが、行政の組織にあわせて、次は何パーセント増を目指すなどの具体目標があるべきで、それに対してできた、できないを評価して回していくというのがあったら良いと思った。

(委員)

建物ができたり、まちが新しくなったり、だんだんきれいなまちになってきたなと思っている。維持していくために私たちに何ができるのか心配。義務や強制になってはいけないと思うが、一人一人、自分が今日から何ができるのか、具体的な道筋を提案していただいたり、このようなことができるといったような計画が行政とともに始まっていけば良いと思う。小さなことでも良いので自分がそこに参加して、ここを維持していくというような気概があることによって、景観や伝統行事、子育てや家の中の考え方が進んでいくと思っている。具体的に何かことができました、始めましたということに関して、自分が今日から参加していけることがなんなのかということヒントがもらえるような問いかけが欲しいと思う。

様々なまちの有名な所を目指して出かけていくと、そんなにすごいまちでもないけれども、意外とそこだけすごいというまちがいっぱいある。そんなにすごいまちでもないのと思う一方、草花やまちの景観に興味があるが、家や通りがきれいだとそこに意志を感じる。そのようなまちというのは全体的に力を持っているまち。そのようなことを積み上げてきた長井を知っていくためには、具体的に小さな子どもでも 65 歳以上の方でも何ができるのかということを実感してほしい。

また、とても遠方から長井のまちに初めて来たという方がたまにいらして、何を目的に来たか聞くと、意外と小さなきっかけだったりする。そのような興味の内容を分析して、アピール点がどこにあるのかこれから探っていくと面白い。

(委員)

すでに他の委員の方からの意見が出ているが、フラワー長井線が不便だということに関して、先日フラワー長井線に乗ると、赤湯まで貸し切り状態だった。休日の朝だったが、これでは赤字になると思った。フラワー長井線は便が少ないので赤湯まで送るのが当たり前になっている。意識が変わっていかないと利用されないと思う。たまに実家に帰る際にフラワー長井線を赤湯まで使っていたが、ここまで少ないと思わなかった。本当に驚いた。やはりこのようなところから考えないといけないと思った。先ほどどこに買い物に行くかおっしゃっていた方がいたが、私は仙台でも山形でもなくネットになる。お店がないので。モノを見たいが見ることができない。子どもが小さい時はお店があってもなくても買いに行くことができない。そのようになってしまうので、心に余裕をもってお店を見たいと思うのが 40 代、50 代だと思う。アンケートのことを自分に置き換えて考えてみると、2, 3 年では自分のまちという感じはしない。アンケート結果で 20 代、30 代の愛着度が低いのは、何年長井に住んでいるかに左右される。

水と緑と花について、緑と花は一生懸命花を植えたり、緑を維持したりしていけば維持できると思うが、水を維持していくのは大変だと思う。長井市はさほど下水道がすすんでいないと聞く。下水道を引いていないところには合併浄化槽などで処理してから水を流すが、80 何パーセントしか長井市は普及していない。この人数がいれば、2, 3 人は下水道がなくそのまま流している人がいることになる。ここから考えると、水は守るためには水を守る取り組みをしなくてはならない。花は植えれば良いが、下水道はなかなか普及しない。市でも補助金を出すなどしているが、なかなか踏み切ってくれない現状がある。今後、水や花、緑を長井のために守るということも考えていただきたい。水は一度汚れたらなかなか元にもどらない。キャッチフレーズに近いところで長井の自慢できるものにしたい。

(委員)

六次総合計画の期間は自分の子どもが教育を受ける真っ只中なので、その点から考えると、P8 の (3) だが、「世界で活躍できる子ども」とあるがいきなり世界と言われると、飛躍してしまって、世界の中に国内も入っているとは思いますが、「さらには世界へ」などの文言だと親としては身近に感じると思う。また「国際感覚を持つ子どもの育成」と言われても構想なのでこのような書き方になると思うが、「国際感覚とは何だろう」と親としては思うので、別用紙が何かで具体的にご提示いただけたらいい。親としても、子どもだけ国際的な教育を受けても親がついていけないと思うので、親への教育も考えているのか親としても心配。「国際感覚をもつ子どもの育成」と言われても、うちはそこまではという家もあるので国内という言葉を含めてもらえると身近に感じられると思う。

六次総合計画の表紙について、レイアウト案だということだが、少し安易な写真だったと思う。けん玉を盛り込むのであれば、けん玉はひとつも構想の中に書いていないので、写真を使うのであ

れば、最初の委員が言ったような皆さん笑顔の写真のほうが親しみがあると思う。

欠席委員からのコメント

(委員)

P8 のまちづくりの課題 5 項目と、基本目標 5 本がかならずしもリンクしていない (1 つの課題に複数の基本目標の要素が含まれるなど※) ことについて。課題 5 点は基本目標 5 本のどこかに含まれています、ということはわかるが、同じ 5 個であるだけに読んでいて戸惑う。まちづくりの課題 5 点は、「横断的な重点戦略」へつながると考えるとよい。または、課題 5 を基本目標へきれいに流れるように整理した方がわかりやすいのではない。例えば課題 (1) は目標 1 につながり包括的でわかりやすい。課題 (3) は目標 2 と 5 に分かれるのか。

P11 について、表紙レイアウト例の写真はダミーだと思うが、実際にはどのような候補がでてくるか。ぜひ、「水と緑と花のまち」や「住み続けたい」、「笑顔」といった表現にふさわしい写真をとる。また、五次総の裏表紙の「長井の心」の掲載はぜひ継続していただきたい。長井の心は県外の方々からも高評価。

(事務局)

まちづくりの課題はすべての部門に共通する課題を挙げている一方、基本目標は部門ごとに分けて設定しているため、必ずしも対応していないものとなっています。誤解が生じないように、まちづくりの課題と基本目標の関係についても整理し、計画中に文章を追加したいと思います。

表紙の写真については検討段階ですので、委員の皆様から出していただいたご意見を参考に精査してまいります。

(2) 第六次総合計画 基本計画の枠組みについて

資料 2 に沿って、事務局から説明。

(委員)

P4 について全く異論がない。見やすくすることにも異論がない。400 本ある事務事業について、どのくらい改善するのかなど数値でお示しいただくとよりわかりやすいと思う。

(事務局)

基本計画においては、主要施策ごとに数字での成果指標を置きたいと思う。事務事業についても、毎年作成する実施計画の方に全てではないが KPI が測れるものについては数値目標を設定して振興審議会で評価していただく形で考えている。

欠席委員からのコメント

(委員)

基本目標が 5 本にしばられ、わかりやすくなっている。

個別施策、分野といった用語が整理されわかりやすくなっている。

SDGs を全体に取り入れることで統一感・一体感がでて良い。

(3) 第六次総合計画の評価方法について

資料 3 に沿って、事務局から説明。

(委員)

以前、PDR のサイクルを回す提案をしたが、PDR の評価という外での評価ではなく部門ごとの、自分たちでやって、その中でやってみた結果の評価で回してほしいというものだった。やりやすい方はどちらでも良いと思うので、取り入れてもらったことはよかった。

欠席委員からのコメント

(委員)

OODA との補完関係について、具体的にはそのようなケースを想定しているのか教えていただきたい

い。1年毎のPDCAもあり、個別計画があり、具体的な事業はある程度現場の判断で運営しているなか、そんな迅速に大元の総合計画を見直すということはあるのか。

現場に即した迅速な対応、職員の能力を活かした対応という点でとても良いと思うが、独断的にならないよう、結果をオブザーブして次の改善をはかるというサイクルの機能、全体的な計画のPDCAへのフィードバックをしっかりと確立するべきと思う。

(事務局)

第六次総合計画では、PDCAサイクルによる進行管理を基本としつつ、計画化されていない新規事業や緊急に対応する必要性が生じた際に、OODAループに基づく迅速な意思決定を行うこととしたいと考えております。OODAループによる迅速な意思決定がすぐに計画の見直しにはなりませんが、意思決定に基づく取り組みを継続していく場合は、実施計画の中に位置付けることでPDCAサイクルの進行管理に含めていく見込みです。

5 その他

特になし

6 閉 会